

# 1 札幌市の人口

## (1) 人口の推移

平成17年10月1日現在の札幌市の人口は1,880,875人（第1表、第1図）

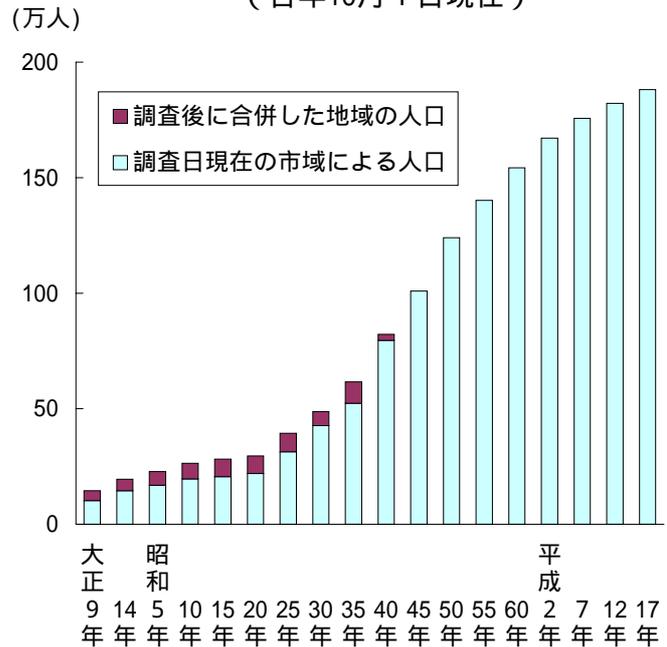
平成17年10月1日現在の札幌市の人口は1,880,875人で、前回調査の12年に比べて、58,507人増加（3.2%増）したが、増加数及び増加率ともに戦後最低となった。

調査日現在の市域による人口の推移をみると、第1回の国勢調査が行われた大正9年は102,580人で、函館、小樽について北海道で3番目であったが、20年後の昭和15年には206,103人と人口規模は2倍になり、函館市（203,862人）を抜いて北海道最大の都市となった。

20年は、第2次世界大戦の影響により人口増加率が低下したため、220,139人とどまった。戦後は、国外からの引き揚げ、産業活動の回復、ベビーブームの到来などによる人口の増加、30年代は、隣接町村との合併による市域の拡大、高度経済成長期における全国的な人口の都市集中化傾向及びエネルギー革命により道内産炭地に生じた余剰人口の流入などにより、人口は急激な増加を続け、35年には50万人を超えた。40年代に入っても、第3次産業や中枢管理機能の集積を背景に人口は急速に増加し、45年には1,010,123人と100万人を突破して全国8番目の百万都市となり、47年に政令指定都市へ移行した。

50年以降、景気の停滞などによる社会増加の縮小、出生率の低下などを要因として、人口増加規模は縮小傾向を示しているものの、人口は依然として増加を続けており、60年（1,542,979人）に京都市を抜いて全国5番目の大都市となり、平成17年は1,880,875人となっている。

第1図 札幌市の人口の推移  
（各年10月1日現在）



注：第1表参照。  
＜資料＞ 総務省統計局「国勢調査」、市民まちづくり局企画部統計課

第1表 札幌市の人口の推移

年次	調査日現在の市域による人口	現市域による組替人口	各年10月1日現在	
			調査日現在の市域増加数	調査日現在の市域増加率 (%)
大正9年	102,580	144,630	-	-
大正14年	145,065	194,726	42,485	41.4
昭和5年	168,576	227,755	23,511	16.2
昭和10年	196,541	264,304	27,965	16.6
昭和15年	206,103	281,758	9,562	4.9
昭和20年 <sup>1)</sup>	220,139	296,053	14,036	6.8
昭和25年	313,850	393,756	93,711	42.6
昭和30年	426,620	487,391	112,770	35.9
昭和35年	523,839	615,628	97,219	22.8
昭和40年	794,908	821,217	271,069	51.7
昭和45年	1,010,123	1,010,123	215,215	27.1
昭和50年	1,240,613	1,240,613	230,490	22.8
昭和55年	1,401,757	1,401,757	161,144	13.0
昭和60年	1,542,979	1,542,979	141,222	10.1
平成2年	1,671,742	1,671,742	128,763	8.3
平成7年	1,757,025	1,757,025	85,283	5.1
平成12年	1,822,368	1,822,368	65,343	3.7
平成17年 <sup>2)</sup>	1,880,875	1,880,875	58,507	3.2

注：1)人口調査（11月1日）の数値である。 2)「平成17年国勢調査」の本市独自集計（要計表による集計）結果である。  
＜資料＞ 総務省統計局「国勢調査」、市民まちづくり局企画部統計課

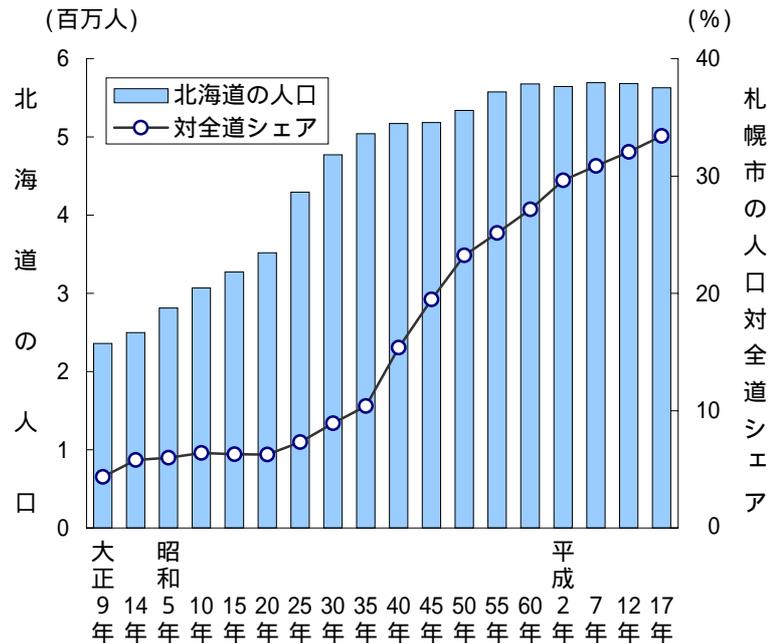
札幌市の人口の対全道シェアは年々高まっており、平成17年は33.4%（第2表、第2図）

平成17年10月1日現在の北海道の人口は5,627,422人で、12年に比べて55,640人の減少（増加率1.0%減）となっている。

札幌市の人口の対全道シェア（北海道に占める札幌市の人口の割合）は33.4%で、12年に比べて1.3ポイント上昇した。

対全道シェアの推移をみると、大正9年は4.3%であったが、その後緩やかに上昇し、昭和10年には6.4%となった。15年及び20年は6.3%と横ばいであったが、その後は再び上昇し、35年（10.4%）に10%を超え、45年（19.5%）には20%近くとなった。55年は25.1%と北海道の人口の4分の1を超え、平成7年は30.9%となって30%を超えた。17年は33.4%となって北海道の人口の3分の1を占めている。

第2図 北海道の人口及び札幌市の人口対全道シェア（各年10月1日現在）



注： 第2表参照。  
 <資料> 総務省統計局「国勢調査」、北海道企画振興部計画室、市民まちづくり局企画部統計課

第2表 札幌市の人口対全道シェア

年次	各年10月1日現在		対全道シェア (%) (A)/(B)
	札幌市 (A)	北海道 (B)	
大正 9年	102,580	2,359,183	4.3
大正 14年	145,065	2,498,679	5.8
昭和 5年	168,576	2,812,335	6.0
昭和 10年	196,541	3,068,282	6.4
昭和 15年	206,103	3,272,718	6.3
昭和 20年 1)	220,139	3,518,389	6.3
昭和 25年	313,850	4,295,567	7.3
昭和 30年	426,620	4,773,087	8.9
昭和 35年	523,839	5,039,206	10.4
昭和 40年	794,908	5,171,800	15.4
昭和 45年	1,010,123	5,184,287	19.5
昭和 50年	1,240,613	5,338,206	23.2
昭和 55年	1,401,757	5,575,989	25.1
昭和 60年	1,542,979	5,679,439	27.2
平成 2年	1,671,742	5,643,647	29.6
平成 7年	1,757,025	5,692,321	30.9
平成 12年	1,822,368	5,683,062	32.1
平成 17年 2)	1,880,875	5,627,422	33.4

注： 1) 人口調査（11月1日）の数値である。 2) 「平成17年国勢調査」の要計表による集計結果であり、札幌市は札幌市独自集計、北海道は北海道独自集計による。  
 <資料> 総務省統計局「国勢調査」、北海道企画振興部計画室、市民まちづくり局企画部統計課

(2) 男女別人口

平成17年10月1日現在、男は888,927人、女は991,948人で、女が103,021人上回っている(第3表)

平成17年10月1日現在の札幌市の人口を男女別にみると、男が888,927人、女が991,948人で、女が103,021人上回っている。12年に比べると、男は20,044人の増加(2.3%増)、女は38,463人の増加(4.0%増)となった。

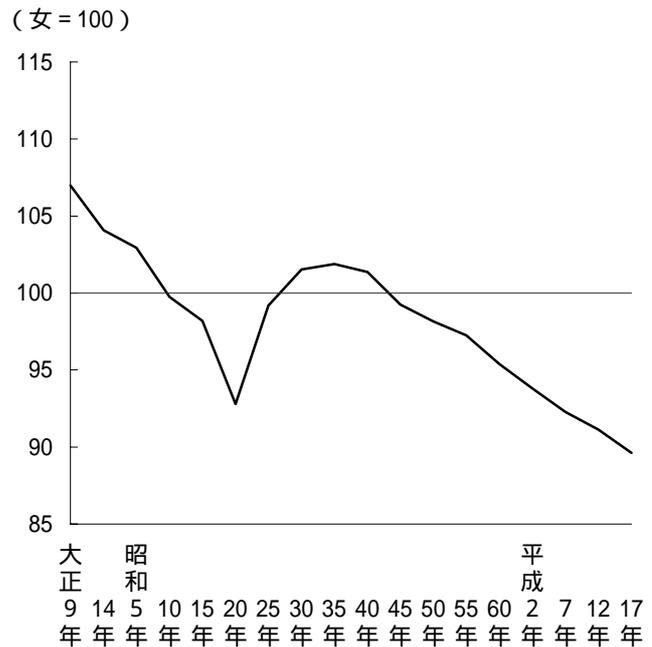
男女別人口の推移をみると、昭和40年までは、第2次世界大戦等により男の海外派兵や死亡数が増大した時期を除いて、男が常に女を上回っていた。45年に初めて女が男を上回ってからは、その差は年々広がり、平成17年の男女差は初めて10万人を超えた。

性比は89.6で、国勢調査開始以来最も低くなっている(第3表、第3図)

平成17年10月1日現在の札幌市の性比(女100人に対する男の数)は89.6で、12年(91.1)に比べて、1.5ポイント低下した。

性比の推移をみると、大正9年は107.0であったが、その後は低下が続き、特に昭和20年には、第2次世界大戦の影響により92.8となった。戦後、国外からの引き揚げなどにより、25年に99.2となり、この5年間で6.4ポイント上昇した。その後、30年、35年、40年は101台で安定していたが、45年に100を下回ってから再び徐々に低下を続け、平成17年は89.6で90を割り、国勢調査開始以来最も低くなっている。

第3図 性比の推移(各年10月1日現在)



注：第3表参照。  
 <資料> 総務省統計局「国勢調査」、市民まちづくり局企画部統計課

第3表 男女別人口の推移

年次	各年10月1日現在			性比 (女=100)
	人口			
	総数	男	女	
大正9年	102,580	53,018	49,562	107.0
14年	145,065	73,980	71,085	104.1
昭和5年	168,576	85,509	83,067	102.9
10年	196,541	98,150	98,391	99.8
15年	206,103	102,112	103,991	98.2
20年 <sup>1)</sup>	220,139	105,954	114,185	92.8
25年	313,850	156,290	157,560	99.2
30年	426,620	214,941	211,679	101.5
35年	523,839	264,367	259,472	101.9
40年	794,908	400,145	394,763	101.4
45年	1,010,123	503,157	506,966	99.2
50年	1,240,613	614,533	626,080	98.2
55年	1,401,757	691,057	710,700	97.2
60年	1,542,979	753,216	789,763	95.4
平成2年	1,671,742	809,185	862,557	93.8
7年	1,757,025	843,170	913,855	92.3
12年	1,822,368	868,883	953,485	91.1
17年 <sup>2)</sup>	1,880,875	888,927	991,948	89.6

注：1) 人口調査(11月1日)の数値である。 2) 「平成17年国勢調査」の本市独自集計(要計表による集計)結果である。  
 <資料> 総務省統計局「国勢調査」、市民まちづくり局企画部統計課

### (3) 世帯数及び世帯規模

平成17年10月1日現在の世帯数は837,371世帯(第4表、第4図)

平成17年10月1日現在の札幌市の世帯数は837,371世帯で、12年に比べて、55,423世帯増加(7.1%増)した。

昭和55年国勢調査以降と50年国勢調査以前では定義が異なるため、55年以降について世帯数の推移をみると、55年の508,823世帯以降、世帯数は一貫して増加しており、平成17年は837,371世帯と、この25年間で1.5倍以上になっている。

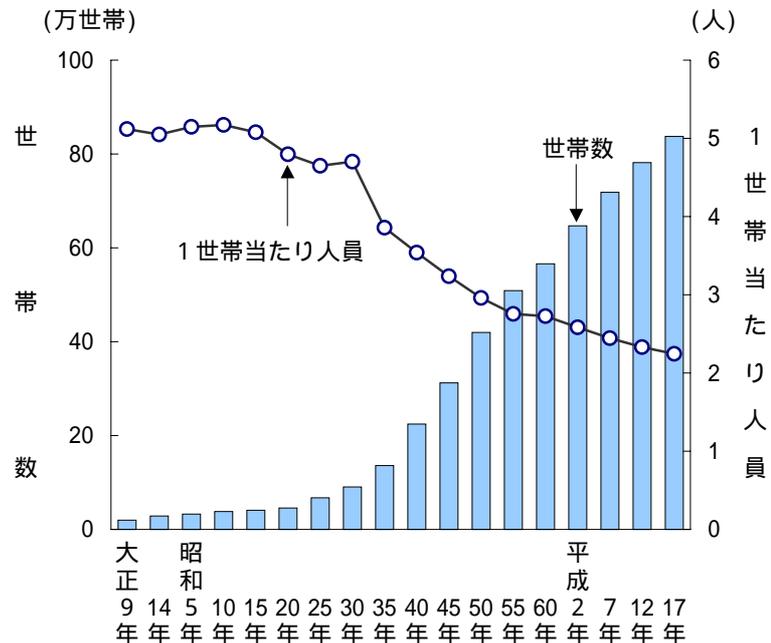
1世帯当たりの人員は2.25人(第4表、第4図)

平成17年10月1日現在の1世帯当たりの人員(以下、「世帯規模」という)は2.25人で、12年に比べて0.08人縮小した。

最近の推移をみると、昭和55年(2.75人)以降、世帯数の増加率が人口の増加率を上回っているため、世帯規模は年々縮小しており、平成17年は2.25人と国勢調査開始以来最も小さくなっている。

このように世帯規模が縮小しているのは、出生率の低下による1世帯当たり子供数の減少、高齢者や若い世代を中心とする単身世帯や夫婦のみの世帯の増加などが要因として考えられる。

第4図 世帯数及び1世帯当たり人員の推移  
(各年10月1日現在)



注： 第4表参照。  
<資料> 総務省統計局「国勢調査」、市民まちづくり局企画部統計課

第4表 世帯数及び1世帯当たり人員の推移

調査日現在の世帯の定義による。

年次	世帯数			1世帯当たり人員	(参考)人口
	総数	増加数	増加率(%)		
大正 9年	20,041	-	-	5.12	102,580
14年	28,726	8,685	43.3	5.05	145,065
昭和 5年	32,752	4,026	14.0	5.15	168,576
10年	38,019	5,267	16.1	5.17	196,541
15年	40,602	2,583	6.8	5.08	206,103
20年 1)	45,899	5,297	13.0	4.80	220,139
25年	67,492	21,593	47.0	4.65	313,850
30年	90,764	23,272	34.5	4.70	426,620
35年	135,783	45,019	49.6	3.86	523,839
40年	224,681	88,898	65.5	3.54	794,908
45年	312,234	87,553	39.0	3.24	1,010,123
50年	419,475	107,241	34.3	2.96	1,240,613
55年	508,823	89,348	21.3	2.75	1,401,757
60年	566,287	57,464	11.3	2.72	1,542,979
平成 2年	646,647	80,360	14.2	2.59	1,671,742
7年	718,473	71,826	11.1	2.45	1,757,025
12年	781,948	63,475	8.8	2.33	1,822,368
17年 2)	837,371	55,423	7.1	2.25	1,880,875

注： 1) 人口調査(11月1日)の数値である。 2) 「平成17年国勢調査」の本市独自集計(要計表による集計)結果である。

<資料> 総務省統計局「国勢調査」、市民まちづくり局企画部統計課

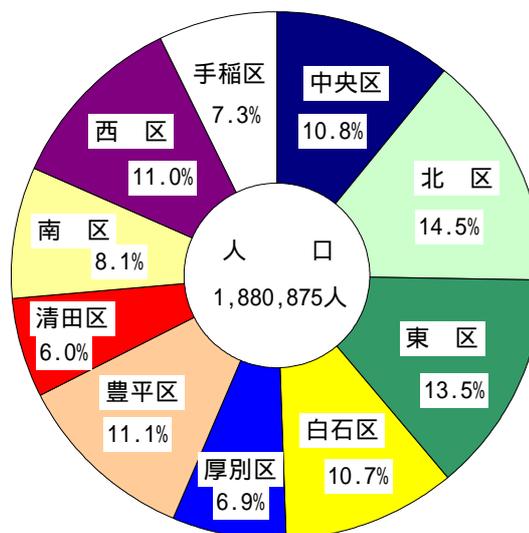
## 2 区別の人口

### (1) 人口の推移

平成17年の区別人口は、北区が272,874人で最も多い(第5表、第5図)

平成17年10月1日現在の区別の人口をみると、北区が272,874人で全市(1,880,875人)の14.5%を占めて最も多く、以下、東区が254,021人(13.5%)、豊平区が209,420人(11.1%)、西区が207,331人(11.0%)、中央区が202,776人(10.8%)、白石区が201,326人(10.7%)、南区が153,034人(8.1%)、手稲区が137,603人(7.3%)、厚別区が129,713人(6.9%)、清田区が112,777人(6.0%)の順となっている。12年と17年の順位を比べると、中央区は、12年に6番目だったが、17年には白石区を抜いて5番目となった。

第5図 区別人口の割合(平成17年10月1日現在)



注：第5表参照。  
 <資料> 市民まちづくり局企画部統計課

平成12～17年の人口増加数は、中央区が2万人を超えて最も多く、南区は10区中唯一の減少(第5表、第6図)

平成12～17年の増加状況を見ると、中央区が21,393人の増加(11.8%増)と2万人を超えて最も多く増加しており、次いで、北区が12,760人の増加(4.9%増)と1万人を超える増加となっている。以下、西区が7,946人の増加(4.0%増)、東区が5,071人の増加(2.0%増)、豊平区が4,720人の増加(2.3%増)、白石区が4,103人の増加(2.1%増)、清田区が2,675人の増加(2.4%増)、厚別区が1,995人の増加(1.6%増)、手稲区が1,597人の増加(1.2%増)となっているが、南区は3,753人の減少(2.4%減)で10区中唯一の減少となっている。

第5表 区別人口の推移

区	人 口			増 加 数		増 加 率 (%)	
	平成7年	12年	17年 <sup>2)</sup>	7～12年	12～17年 <sup>2)</sup>	7～12年	12～17年 <sup>2)</sup>
全 市	1,757,025	1,822,368	1,880,875	65,343	58,507	3.7	3.2
中 央 区	173,358	181,383	202,776	8,025	21,393	4.6	11.8
北 区	251,419	260,114	272,874	8,695	12,760	3.5	4.9
東 区	241,319	248,950	254,021	7,631	5,071	3.2	2.0
白 石 区	192,102	197,223	201,326	5,121	4,103	2.7	2.1
厚 別 区	122,738	127,718	129,713	4,980	1,995	4.1	1.6
豊 平 区	196,126	204,700	209,420	8,574	4,720	4.4	2.3
清 田 区	100,521	110,102	112,777	9,581	2,675	9.5	2.4
南 区	155,650	156,787	153,034	1,137	3,753	0.7	2.4
西 区	194,308	199,385	207,331	5,077	7,946	2.6	4.0
手 稲 区	129,484	136,006	137,603	6,522	1,597	5.0	1.2

注：1) 内の数字は、10区中の順位である。 2) 平成17年は「平成17年国勢調査」の本市独自集計(要計表による集計)結果である。  
 <資料> 総務省統計局「国勢調査」、市民まちづくり局企画部統計課

前回（7～12年）は、全ての区で人口が増加していたが、12～17年では、南区が増加から減少に転じた。一方で、中央区は前回の増加数の2倍以上となっており、区によって差が生じている。

## (2) 男女別人口

中央区の性比は、81.2と他区に比べて著しく低い（第6表）

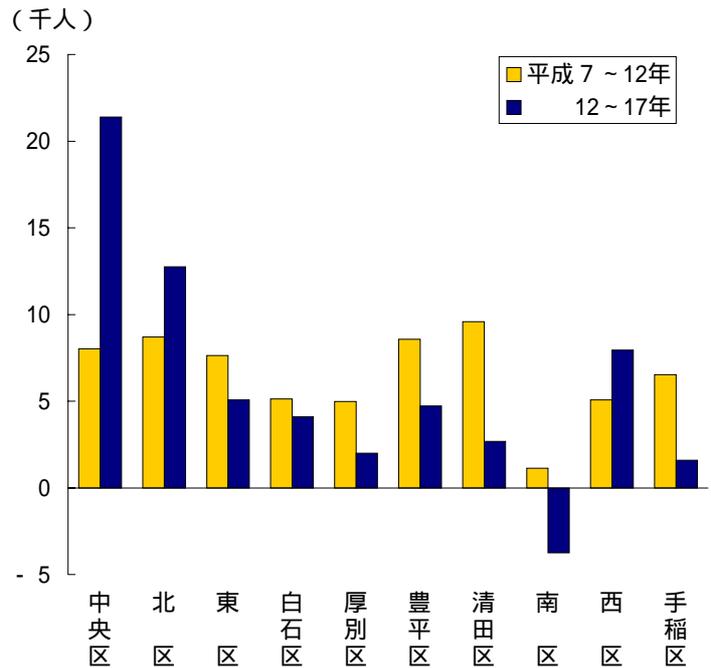
平成17年の人口を男女別にみると、男は、北区が130,243人で最も多く、以下、東区が122,626人、豊平区が98,893人、西区が97,430人、白石区が96,622人などと続いている。

女は、北区が142,631人で最も多く、以下、東区が131,395人、中央区が111,884人、豊平区が110,527人、西区が109,901人などと続いている。

中央区は、男では10区中6番目だが、女では3番目と男女の順位に差がみられる。

各区の性比をみると、東区が93.3で最も高く、以下、白石区が92.3、手稲区が91.5、北区が91.3、清田区が91.2、南区が89.7などと続いており、この6区で全市の性比（89.6）を上回っている。さらに、豊平区が89.5、西区が88.7、厚別区が87.0と続き、中央区は81.2と他区に比べて著しく低くなっている。

第6図 区別人口増加数



注：第5表参照。

<資料> 総務省統計局「国勢調査」、市民まちづくり局企画部統計課

第6表 区、男女別人口及び区別性比

「平成17年国勢調査」の本市独自集計（要計表による集計）結果である。

区	平成17年10月1日現在			性比 (女=100)
	人口 総数	男	女	
全市	1,880,875	888,927	991,948	89.6
中央区	202,776	90,892	111,884	81.2
北区	272,874	130,243	142,631	91.3
東区	254,021	122,626	131,395	93.3
白石区	201,326	96,622	104,704	92.3
厚別区	129,713	60,335	69,378	87.0
豊平区	209,420	98,893	110,527	89.5
清田区	112,777	53,785	58,992	91.2
南区	153,034	72,366	80,668	89.7
西区	207,331	97,430	109,901	88.7
手稲区	137,603	65,735	71,868	91.5

注：1) 内の数字は、10区中の順位である。

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

### (3) 世帯数及び世帯規模

平成17年の区別世帯数は、北区が120,801世帯で最も多い(第7表)

平成17年10月1日現在の区別の世帯数をみると、北区が120,801世帯で最も多く、以下、東区が113,386世帯、中央区が108,376世帯、豊平区が101,454世帯、白石区が95,950世帯、西区が89,893世帯、南区が64,114世帯、厚別区が51,837世帯、手稲区が51,396世帯、清田区が40,164世帯となっている。

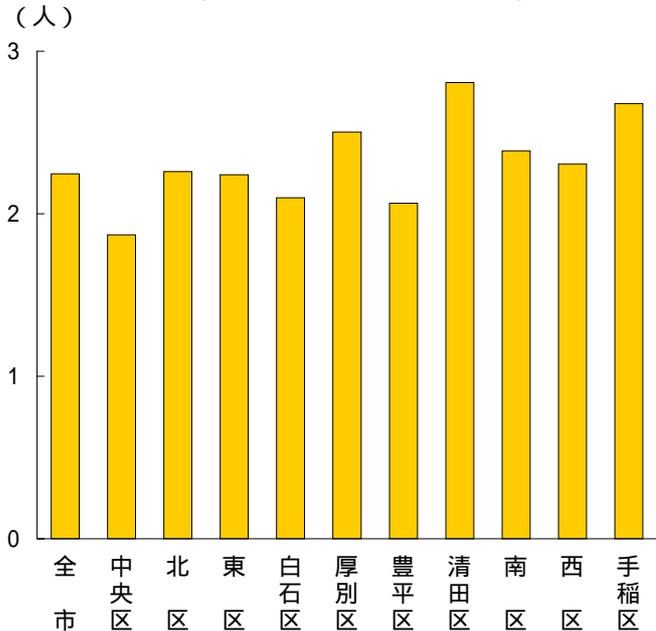
世帯数と人口の順位を比べると、中央区、白石区及び厚別区の3区では、人口より世帯数の順位が上回っているが、豊平区、西区及び手稲区の3区では、人口より世帯数の順位が下回っている。

12～17年の増加状況を見ると、いずれの区でも世帯数は増加しており、中央区が14,166世帯の増加で最も多く、以下、北区が9,353世帯の増加、西区が7,135世帯の増加などと続いている。また、増加率でも中央区が15.0%増と10%を超えて最も高くなっている。

世帯規模は中央区が1.87人と2人を割って最も小さい(第7表、第7図)

区別の世帯規模をみると、清田区が2.81人で最も大きく、以下、手稲区が2.68人、厚別区が2.50人、南区が2.39人、西区が2.31人、北区が2.26人、東区が2.24人、白石区が2.10人、豊平区が2.06人と続き、最も小さい中央区では1.87人と2人を割っており、最も大きい清田区と比べると0.94人下回っている。

第7図 区別1世帯当たり人員  
(平成17年10月1日現在)



注：第7表参照。  
<資料> 総務省統計局「国勢調査」、市民まちづくり局企画部統計課

第7表 区別世帯数、人口及び1世帯当たり人員

区	各年10月1日現在							
	世帯数 1)		人口 1)		1世帯当たり人員		世帯数の増加状況 2)	
	平成12年	17年 2)	12年	17年 2)	12年	17年 2)	増加数	増加率(%)
全 市	781,948	837,371	1,822,368	1,880,875	2.33	2.25	55,423	7.1
中 央 区	94,210	108,376	181,383	202,776	1.93	1.87	14,166	15.0
北 区	111,448	120,801	260,114	272,874	2.33	2.26	9,353	8.4
東 区	108,132	113,386	248,950	254,021	2.30	2.24	5,254	4.9
白 石 区	91,494	95,950	197,223	201,326	2.16	2.10	4,456	4.9
厚 別 区	48,759	51,837	127,718	129,713	2.62	2.50	3,078	6.3
豊 平 区	97,557	101,454	204,700	209,420	2.10	2.06	3,897	4.0
清 田 区	37,939	40,164	110,102	112,777	2.90	2.81	2,225	5.9
南 区	60,955	64,114	156,787	153,034	2.57	2.39	3,159	5.2
西 区	82,758	89,893	199,385	207,331	2.41	2.31	7,135	8.6
手 稲 区	48,696	51,396	136,006	137,603	2.79	2.68	2,700	5.5

注：1) 内の数字は、10区中の順位である。 2) 平成17年は「平成17年国勢調査」の本市独自集計(要計表による集計)結果である。  
<資料> 総務省統計局「国勢調査」、市民まちづくり局企画部統計課

### 3 地域別人口

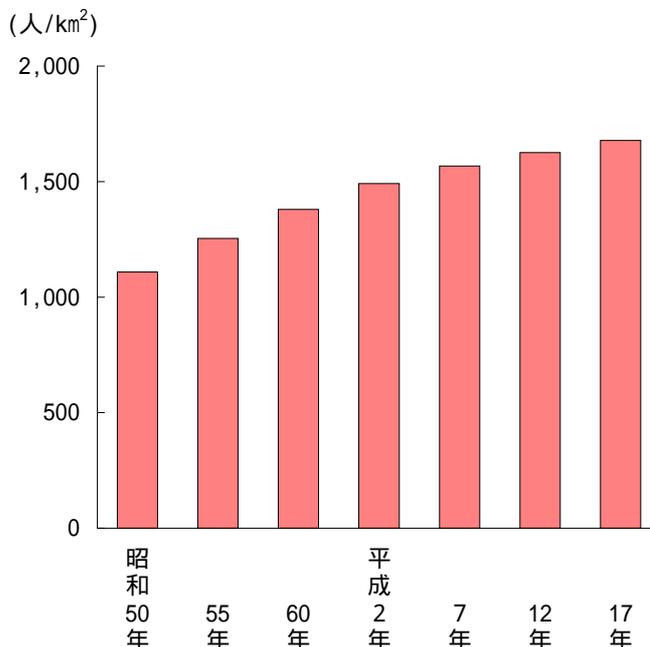
#### (1) 市街化区域内人口

平成17年10月1日現在、全市人口の98.6%が市街化区域に居住している（第8表）

都市計画法による「市街化区域（すでに市街地を形成している区域及びおおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域）」と「その他の区域（市街化調整区域及び都市計画区域外）」の人口及び人口密度の推移をみる。

平成17年10月1日現在の札幌市の「市街化区域の面積」は249.30 km<sup>2</sup>で、総面積（1,121.12 km<sup>2</sup>）の22.2%を占めているにすぎないが、人口は1,855,480人で、全市（1,880,875人）の98.6%となっている。一方、「その他の区域」に居住する人口は、25,395人となっている。

第8図 人口密度の推移（各年10月1日現在）



注：第8表参照。  
 <資料> 総務省統計局「国勢調査」、市民まちづくり局企画部統計課

全市域の人口密度は1,678人/km<sup>2</sup>で、市街化区域では7,443人/km<sup>2</sup>（第8表、第8図）

平成17年の人口密度をみると、全市域は1,678人/km<sup>2</sup>となっており、12年（1,625人/km<sup>2</sup>）に比べて53人/km<sup>2</sup>上昇している。推移をみると、昭和50年は1,110人/km<sup>2</sup>だったが、その後一貫して上昇が続き、平成17年には1,678人/km<sup>2</sup>と、30年間で1.5倍以上になっている。

また、市街化区域内の人口密度は7,443人/km<sup>2</sup>で、12年（7,269人/km<sup>2</sup>）に比べて174人/km<sup>2</sup>上昇している。

第8表 市街化区域面積、人口及び人口密度の推移

本市独自集計結果である。

年次	各年10月1日現在							
	面積 (km <sup>2</sup> )			人口			人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	
	全市域	市街化区域	その他の区域 1)	全市域	市街化区域	その他の区域 1)	全市域	うち市街化区域
昭和50年	1,118.01	220.10	897.91	1,240,613	1,207,146	33,467	1,110	5,485
55年	1,118.01	232.20	885.81	1,401,757	1,371,801	29,956	1,254	5,908
60年	1,118.01	234.49	883.52	1,542,979	1,515,325	27,654	1,380	6,462
平成2年	1,121.18	239.83	881.35	1,671,742	1,644,260	27,482	1,491	6,856
7年	1,121.12	243.00	878.12	1,757,025	1,731,120	25,905	1,567	7,124
12年	1,121.12	247.21	873.91	1,822,368	1,796,953	25,415	1,625	7,269
17年 2)	1,121.12	249.30	871.82	1,880,875	1,855,480	25,395	1,678	7,443

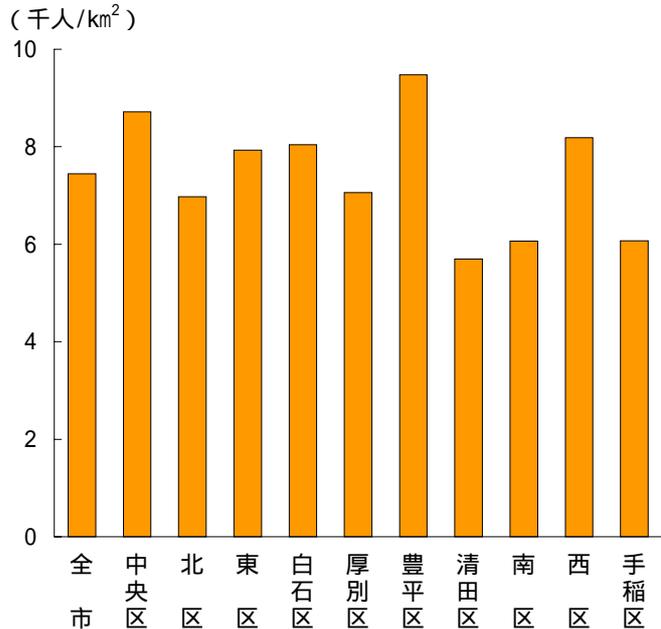
注：1) 市街化調整区域および都市計画区域外である。 2) 人口は「平成17年国勢調査」の要計表及び世帯名簿による集計結果である。  
 <資料> 総務省統計局「国勢調査」、市民まちづくり局都市計画部都市計画課、企画部統計課

総面積での人口密度は、白石区が5,822人/ km<sup>2</sup>で最も高い(第9表)

各区の総面積での人口密度をみると、白石区が5,822人/ km<sup>2</sup>で最も高く、以下、厚別区が5,320人/ km<sup>2</sup>、豊平区が4,518人/ km<sup>2</sup>、東区が4,446人/ km<sup>2</sup>、中央区が4,368人/ km<sup>2</sup>、北区が4,299人/ km<sup>2</sup>、西区が2,767人/ km<sup>2</sup>、手稲区が2,417人/ km<sup>2</sup>、清田区が1,889人/ km<sup>2</sup>、南区が233人/ km<sup>2</sup>の順となっており、南区が極端に低くなっている。

南区が低いのは、南区が全市域の約60%におよぶ広大な区域を占めており、しかもその9割を山林・原野が占めているためである。

第9図 区別市街化区域人口密度  
(平成17年10月1日現在)



注：第9表参照。  
<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

市街化区域での人口密度は、豊平区が9,476人/ km<sup>2</sup>で最も高い(第9表、第9図)

各区の市街化区域の人口密度をみると、豊平区が9,476人/ km<sup>2</sup>で最も高く、以下、中央区が8,718人/ km<sup>2</sup>、西区が8,189人/ km<sup>2</sup>、白石区が8,039人/ km<sup>2</sup>、東区が7,928人/ km<sup>2</sup>、厚別区が7,057人/ km<sup>2</sup>、北区が6,973人/ km<sup>2</sup>、手稲区が6,073人/ km<sup>2</sup>、南区が6,062人/ km<sup>2</sup>、清田区が5,701人/ km<sup>2</sup>の順となっている。

第9表 区別市街化区域面積、人口及び人口密度

「平成17年国勢調査」の本市独自集計(要計表及び世帯名簿による集計)結果である。

区	平成17年10月1日現在								
	面積 (km <sup>2</sup> )			人口			人口密度 (人/ km <sup>2</sup> )		
	全市域	市街化区域	その他の区域 <sup>1)</sup>	全市域	市街化区域	その他の区域 <sup>1)</sup>	全市域	うち市街化区域	
全市	1,121.12	249.30	871.82	1,880,875	1,855,480	25,395	1,678	7,443	
中央区	46.42	23.02	23.40	202,776	200,695	2,081	4,368	8,718	
北区	63.48	38.65	24.83	272,874	269,514	3,360	4,299	6,973	
東区	57.13	31.48	25.65	254,021	249,558	4,463	4,446	7,928	
白石区	34.58	24.75	9.83	201,326	198,969	2,357	5,822	8,039	
厚別区	24.38	18.27	6.11	129,713	128,940	773	5,320	7,057	
豊平区	46.35	22.04	24.31	209,420	208,862	558	4,518	9,476	
清田区	59.70	19.52	40.18	112,777	111,277	1,500	1,889	5,701	
南区	657.23	24.00	633.23	153,034	145,478	7,556	233	6,062	
西区	74.93	25.19	49.74	207,331	206,274	1,057	2,767	8,189	
手稲区	56.92	22.38	34.54	137,603	135,913	1,690	2,417	6,073	

注：1) 市街化調整区域および都市計画区域外である。

<資料> 市民まちづくり局都市計画部都市計画課、企画部統計課

(2) 都心からの距離圏別人口

都心から「3～6 km未満」の地域の人口は660,004人で、全市人口の35.1%占める（第10表、第10図）

市域を第10図のとおり、都心（中央区南1条西4丁目交差点）からの距離圏別に、「3 km未満」、「3～6 km未満」、「6～9 km未満」、「9 km以上」の4つの地域に区分して、各距離圏別の人口をみる。

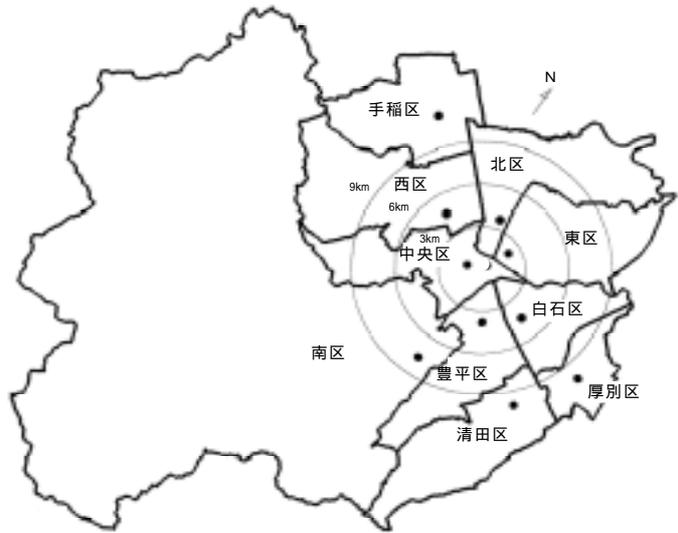
平成17年10月1日現在、都心から「3～6 km未満」の地域の人口が660,004人で全市（1,880,875人）の35.1%と3分の1以上を占めて4地域中で最も多く、以下、「6～9 km未満」が495,796人（26.4%）、「9 km以上」が451,688人（24.0%）、「3 km未満」が273,387人（14.5%）となっている。

平成12～17年の人口増加数は、「3 km未満」が26,676人の増加で最も多い（第10表）

12～17年の増加数をみると、すべての地域で増加となっており、「3 km未満」が26,676人の増加（10.8%増）で最も多く、以下、「3～6 km未満」が12,709人の増加（2.0%増）、「9 km以上」が11,092人の増加（2.5%増）、「6～9 km未満」が8,030人の増加（1.6%増）となっている。

7～12年の増加数と比べると、「3 km未満」では増加規模が2倍以上に拡大しているが、他の3地域では増加規模は縮小しており、特に「9 km以上」では、増加規模が半分以下に縮小している。

第10図 都心からの距離圏



第10表 都心からの距離圏別人口の推移

本市独自集計結果である。

年次	各年10月1日現在				
	全市	3 km未満	3～6 km未満	6～9 km未満	9 km以上
	人		口		
昭和50年	1,240,613	274,952	530,386	284,262	151,013
55年	1,401,757	251,633	579,866	357,191	213,067
60年	1,542,979	245,907	618,157	411,498	267,417
平成 2年	1,671,742	244,860	629,641	444,040	353,201
7年	1,757,025	235,838	627,905	476,803	416,479
12年	1,822,368	246,711	647,295	487,766	440,596
17年 1)	1,880,875	273,387	660,004	495,796	451,688
	割		合 (%)		
昭和50年	100.0	22.2	42.8	22.9	12.2
55年	100.0	18.0	41.4	25.5	15.2
60年	100.0	15.9	40.1	26.7	17.3
平成 2年	100.0	14.6	37.7	26.6	21.1
7年	100.0	13.4	35.7	27.1	23.7
12年	100.0	13.5	35.5	26.8	24.2
17年 1)	100.0	14.5	35.1	26.4	24.0
	人口増加数				
50～55年	161,144	23,319	49,480	72,929	62,054
55～60年	141,222	5,726	38,291	54,307	54,350
60～2年	128,763	1,047	11,484	32,542	85,784
2～7年	85,283	9,022	1,736	32,763	63,278
7～12年	65,343	10,873	19,390	10,963	24,117
12～17年 1)	58,507	26,676	12,709	8,030	11,092
	人口増加率 (%)				
50～55年	13.0	8.5	9.3	25.7	41.1
55～60年	10.1	2.3	6.6	15.2	25.5
60～2年	8.3	0.4	1.9	7.9	32.1
2～7年	5.1	3.7	0.3	7.4	17.9
7～12年	3.7	4.6	3.1	2.3	5.8
12～17年 1)	3.2	10.8	2.0	1.6	2.5

注：1) 平成17年は「平成17年国勢調査」の要計表による集計結果である。

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

(3) まちづくりセンター別人口

平成17年10月1日現在、西区の「西町」の人口が42,075人で最も多い(第11表、第11図)

平成17年10月1日現在の人口(1,880,875人)を87か所のまちづくりセンター別にみると、人口30,000人以上のまちづくりセンターは17か所、20,000人～30,000人未満は30か所、10,000人～20,000人未満は27か所、10,000人未満は13か所となっている。

まちづくりセンター別の人口をみると、西区の「西町」が42,075人で最も多く、以下、北区の「新琴似」が40,445

人、南区の「藻岩」が39,106人、白石区の「白石」が38,671人、東区の「北栄」が37,992人、西区の「西野」が36,832人、厚別区の「厚別南」が36,669人、白石区の「北白石」が35,386人、豊

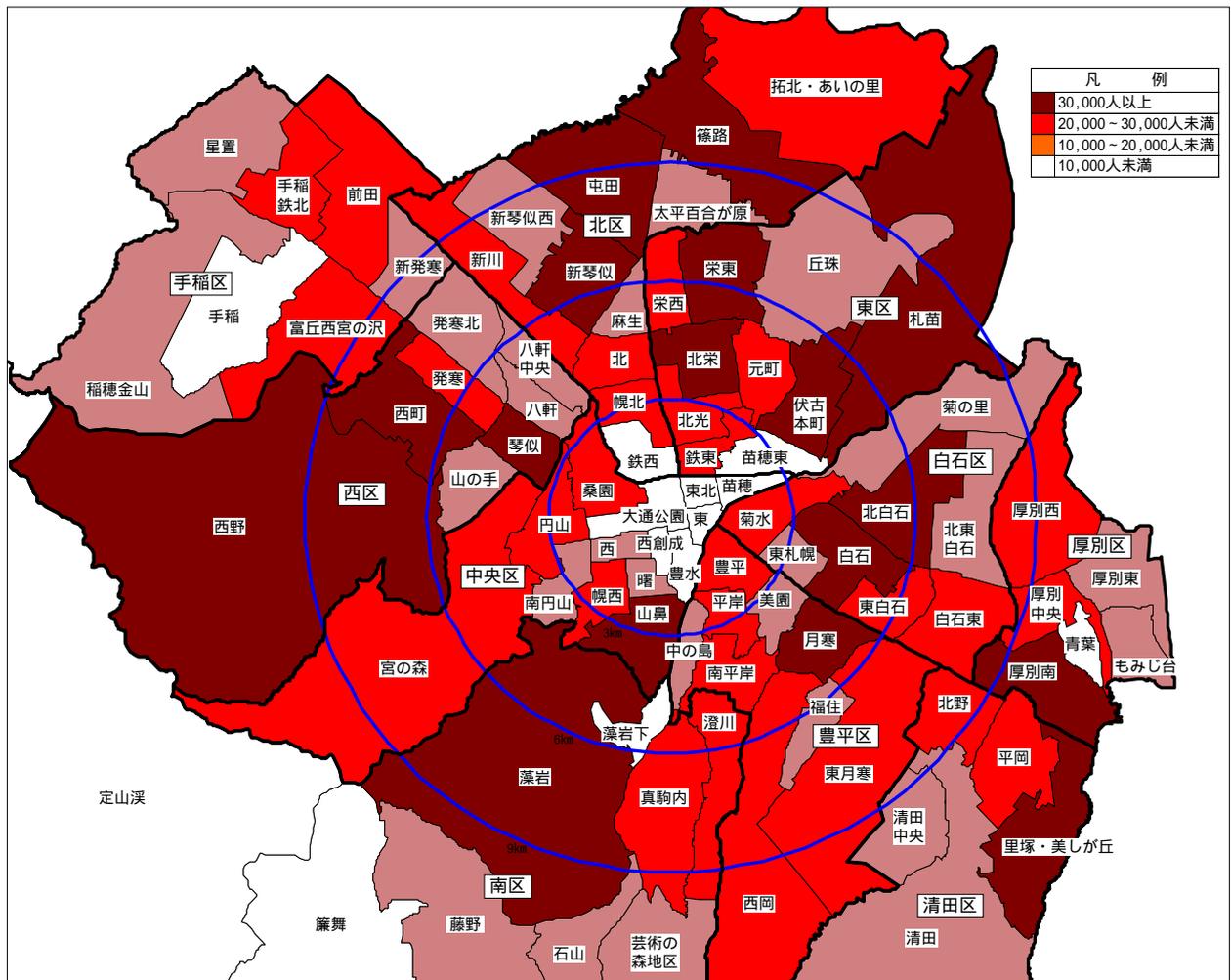
第11表 平成17年現在の順位による人口の多いまちづくりセンター

順位 1)	まちづくりセンター	各年10月1日現在 人口	
		平成12年	17年2)
1 (3)	西) 西町	38,671	42,075
2 (1)	北) 新琴似	40,898	40,445
3 (2)	南) 藻岩	40,092	39,106
4 (4)	白) 白石	38,373	38,671
5 (6)	東) 北栄	36,971	37,992
6 (5)	西) 西野	37,155	36,832
7 (8)	厚) 厚別南	35,594	36,669
8 (7)	白) 北白石	35,642	35,386
9 (9)	豊) 月寒	33,437	34,529
10 (12)	中) 山鼻	32,292	34,285

注：1) ( )内は平成12年現在の順位。 2) 「平成17年国勢調査」の本  
市独自集計(要計表による集計)結果である。

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

第11図 まちづくりセンター別人口分布(平成17年10月1日現在)



平区の「月寒」が34,529人、中央区の「山鼻」が34,285人などと続いている。

平成12～17年にかけて、人口増加数の最も多いまちづくりセンターは中央区の「桑園」（第12表、第12図）

平成12～17年にかけての人口増加数をまちづくりセンター別にみると、2,000人以上増加しているまちづくりセンターの数は8か所、1,000～2,000人未満の増加は21か所、0～1,000人未満の増加は31か所となっており、60か所で人口が増加している。一方、人口が減少しているまちづくりセンターは27か所となっている。

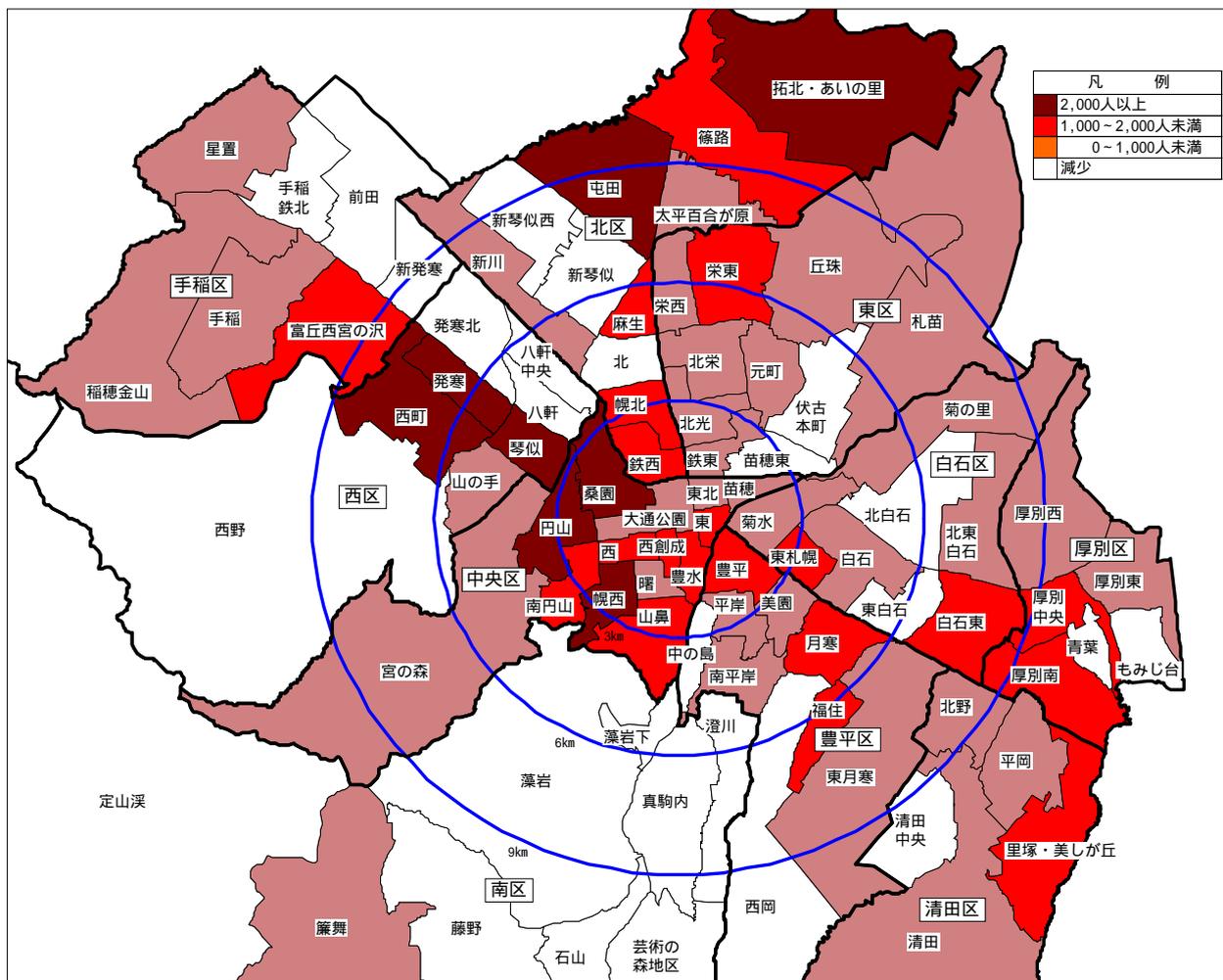
第12表 人口増加数の多いまちづくりセンター及び少ないまちづくりセンター  
（平成12～17年）

平成17年は「平成17年国勢調査」の本市独自集計（要計表による集計）結果である。

順位	人口増加数の多いまちづくりセンター		順位	人口増加数の少ないまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	増加数		まちづくりセンター	増加数
1	中) 桑園	4,140	1	厚) 青葉	1,113
2	北) 屯田	3,954	2	南) 藻岩	987
3	西) 西町	3,401	3	厚) もみじ台	859
4	西) 琴似	3,399	4	南) 澄川	748
5	西) 発寒	2,689	5	西) 八軒	688
6	中) 円山	2,604	6	南) 藤野	626
7	北) 拓北・あいの里	2,458	7	豊) 西岡	619
8	中) 幌西	2,103	8	白) 東白石	587
9	中) 山鼻	1,994	9	西) 八軒中央	569
10	中) 東	1,906	10	北) 新琴似	453

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

第12図 まちづくりセンター別人口増加数（平成12～17年）



まちづくりセンター別の人口増加数をみると、中央区の「桑園」が4,140人の増加と4千人を超えて最も増加し、以下、北区の「屯田」が3,954人の増加、西区の「西町」が3,401人の増加、西区の「琴似」が3,399人の増加、西区の「発寒」が2,689人の増加などと続いている。

一方、12～17年にかけて人口が減少したまちづくりセンターをみると、厚別区の「青葉」が1,113人の減少と1千人を超えて最も減少し、

次いで南区の「藻岩」が987人の減少、厚別区の「もみじ台」が859人の減少、南区の「澄川」が748人の減少、西区の「八軒」が688人の減少などと続いている。

区別にみると、中央区ではすべてのまちづくりセンターで増加しており、人口増加数の順位でも上位10位のうち5つを占めている。一方、南区では「簾舞」を除くすべてのまちづくりセンターで減少している。また、西区では、「山の手」以外のまちづくりセンターは、2千人以上増加した地域と、減少した地域に2極化しており、区の中で差がみられる。

平成12～17年にかけて人口増加率の最も高いまちづくりセンターは中央区の「東」（第13表）

平成12～17年にかけての人口増加率をみると、中央区の「東」が44.8%増で最も高い伸びを示しており、以下、北区の「鉄西」が38.5%増、中央区の「豊水」が32.3%増、中央区の「東北」が30.7%増、中央区の「西創成」が28.9%増などと続いており、上位10位のうち7つを中央区のまちづくりセンターが占めている。

一方、12～17年にかけて増加率の低いまちづくりセンターをみると、厚別区の「青葉」が11.3%減と10%を超えて最も低くなっており、以下、南区の「定山溪」が7.0%減、南区の「藻岩下」が5.6%減、東区の「苗穂東」が4.6%減、厚別区の「もみじ台」が4.4%減などと続いている。

第13表 人口増加率の高いまちづくりセンター及び低いまちづくりセンター  
(平成12～17年)

平成17年は「平成17年国勢調査」の本市独自集計  
(要計表による集計)結果である。

(単位 %)

順位	人口増加率の高いまちづくりセンター		順位	人口増加率の低いまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	増加率		まちづくりセンター	増加率
1	中)東	44.8	1	厚)青葉	11.3
2	北)鉄西	38.5	2	南)定山溪	7.0
3	中)豊水	32.3	3	南)藻岩下	5.6
4	中)東北	30.7	4	東)苗穂東	4.6
5	中)西創成	28.9	5	厚)もみじ台	4.4
6	中)桑園	24.1	6	南)石山	3.7
7	北)屯田	13.4	7	西)八軒中央	3.6
8	中)大通公園	12.7	8	西)八軒	3.4
9	西)琴似	12.5	9	南)藤野	3.1
10	中)円山	11.9	10	南)藻岩	2.5

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

(4) 統計区別人口

第14表 平成17年現在の順位による人口の多い統計区

平成17年10月1日現在、白石区の4012統計区が20,431人で最も多い(第14表)

平成17年10月1日現在の札幌市の人口(1,880,875人)を統計区(206統計区)別にみると、白石区の4012統計区(栄通、南郷通、本通南)が20,431人で最も多く、以下、北区の2024-2統計区(あいの里、篠路町拓北)が19,070人、白石区の4004-1統計区(東札幌、中央)が18,976

人、厚別区の4507統計区(もみじ台東・西・南・北)が18,868人、厚別区の4503統計区(厚別南、厚別中央、大谷地東)が17,660人、西区の7012-4統計区(西野)が17,565人、豊平区の5007統計区(中の島、平岸)が17,368人、清田区の5504-2統計区(清田)が17,331人、北区の2018統計区(太平、篠路町太平、百合が原)が17,052人、北区の2005統計区(北地区)が17,038人、などと続いている。12年と比べると、12年で最も多かった厚別区の4507統計区は4番目に後退している。

平成12～17年にかけて、人口増加数の最も多い統計区は北区の2017-2統計区(屯田、屯田町)(第15表、第13図)

平成12～17年にかけての人口増加数を統計区別にみると、1,000人以上増加している統計区の数27統計区、500～1,000人未満の増加は25統計区、0～500人未満の増加は76統計区となっており、128統計区で人口が増加している。一方、人口が減少しているのは78統計区となっている。

統計区別の人口増加数をみると、北区の2017-2統計区(屯田、屯田町)が3,901人の増加で最も増加し、以下、西区の7005統計区(琴似)が2,878人の増加、北区の2001統計区(鉄西地区、幌北地区)が2,449人の増加、中央区の1016統計区(円山地区、桑園地区)が2,423人の増加、西区の7015統計区(発寒、宮の沢)が2,226人の増加などと続いている。増加数の多い統計区は、都心から3km以内や地下鉄の東西線沿線、北区郊外の統計区に多くなっている。

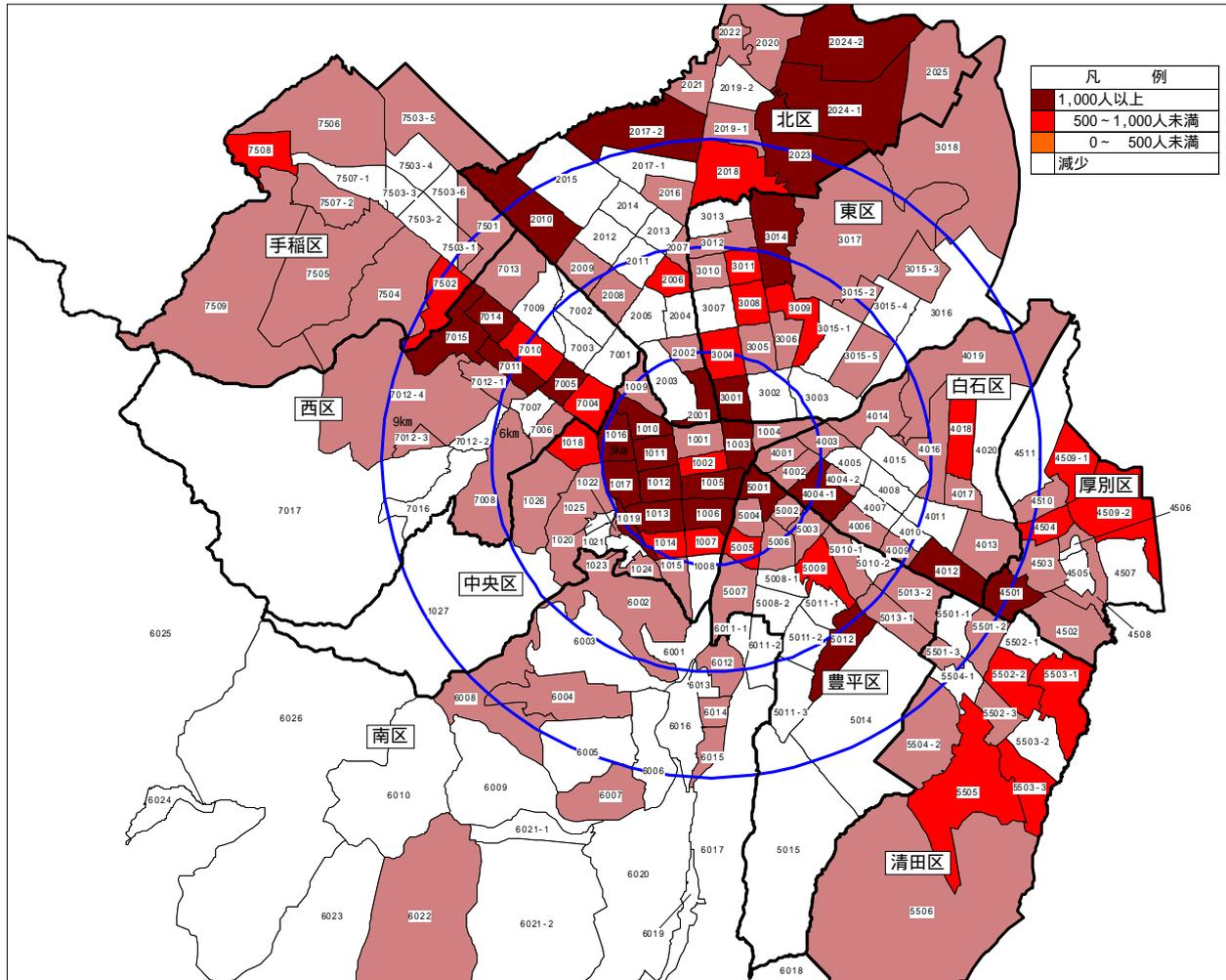
一方、12～17年にかけて人口が減少した統計区をみると、厚別区の4507統計区(もみじ台東・西・南・北)が859人の減少と最も減少し、以下、手稲区の7503-2統計区(前田)が755人の減少、西区の7003統計区(八軒西)が746人の減少、南区の6013統計区(真駒内本町・曙町)が619人の減少、南区の6006統計区(川沿、川沿町)が586人の減少などと続いている。減少した統計区は、都心から6km以上の統計区で多くみられる。

順位 1)	統計区番号及び主な地区・町名	各年10月1日現在 人口	
		平成12年	17年2)
1 (2)	4012 白石区栄通、南郷通、本通南	19,403	20,431
2 (3)	2024-2 北区あいの里、篠路町拓北	17,878	19,070
3 (4)	4004-1 白石区東札幌、中央	17,792	18,976
4 (1)	4507 厚別区もみじ台東・西・南・北	19,727	18,868
5 (5)	4503 厚別区厚別南、厚別中央、大谷地東	17,598	17,660
6 (6)	7012-4 西区西野	17,441	17,565
7 (9)	5007 豊平区中の島、平岸	17,091	17,368
8 (8)	5504-2 清田区清田	17,224	17,331
9 (11)	2018 北区太平、篠路町太平、百合が原	16,418	17,052
10 (7)	2005 北区北地区	17,424	17,038
11 (15)	7010 西区発寒	15,741	16,664
12 (19)	1012 中央区大通地区、西地区	15,380	16,599
13 (10)	6006 南区川沿、川沿町	16,902	16,316
14 (14)	5006 豊平区豊平、美園、平岸	15,923	16,209
15 (12)	4015 白石区北郷	16,389	16,109

注：1) ( )内は平成12年現在の順位。 2) 「平成17年国勢調査」の本市独自集計(要計表による集計)結果である。

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

第13図 統計区別人口増加数（平成12～17年）



第15表 人口増加数の多い統計区及び少ない統計区（平成12～17年）

平成17年は「平成17年国勢調査」の本市独自集計（要計表による集計）結果である。

順位	人口増加数の多い統計区		順位	人口増加数の少ない統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	増加数		統計区番号及び主な地区・町名	増加数
1	2017-2 北区屯田、屯田町	3,901	1	4507 厚別区もみじ台東・西・南・北	859
2	7005 西区琴似	2,878	2	7503-2 手稲区前田	755
3	2001 北区鉄西地区、幌北地区	2,449	3	7003 西区八軒西	746
4	1016 中央区円山地区、桑園地区	2,423	4	6013 南区真駒内本町・曙町	619
5	7015 西区発寒、宮の沢	2,226	5	6006 南区川沿、川沿町	586
6	1003 中央区東北地区、東地区	2,208	6	4505 厚別区青葉町	583
7	1005 中央区豊水地区、西創成地区	2,175	7	6011-2 南区澄川	542
8	1011 中央区大通地区、桑園地区	2,037	8	3003 東区苗穂地区、苗穂町、本町、雁来町	538
9	7014 西区発寒	1,752	9	7016 西区福井	478
10	1006 中央区豊水地区、曙地区	1,686	10	3002 東区鉄東地区、苗穂地区	462
11	2023 北区篠路、篠路町上篠路	1,655	11	6020 南区真駒内南町、石山、石山東、芸術の森	421
12	1017 中央区南円山地区、円山地区	1,633	12	4506 厚別区厚別中央	409
13	1010 中央区桑園地区	1,407	13	2005 北区北地区	386
14	1019 中央区幌西地区、南円山地区	1,342	14	2014 北区新琴似	375
15	5001 豊平区豊平、旭町、水車町	1,332	15	7001 西区八軒東	364

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

(5) 人口重心

平成17年の人口重心は中央区大通東2丁目、12年に比べに北西方向へ移動（第16表、第14図）

「人口重心」とは、ある地域の人口分布の状態を最も簡約に示すため、物理学の重心の概念を導入して測定された物理的位置のことである。すなわち、一定の地域を一つの平面と考え、その上に分布している人口の1人1人が同じ重さを持つと仮定した場合、その地域内の人口を全体として平衡の位置に保つような中心点を、人口重心と呼んでいる。

平成17年10月1日現在の札幌市の人口重心は中央区北1条東2丁目となっている。

推移をみると、昭和35年には中央区南2条西5丁目であったが、40年には白石区、豊平区の人口増加が著しかったことから南2条西3丁目と東方向に移動した。45年、50年には、北区、東区の人口増加が大きく、北東方向に移動した。55年は北東方向に移動したが、60年は厚別区での人口増加が著しかったこと、北区、東区の人口増加が清田区、南区に比べて鈍ったことにより、南東方向に移動し、大通東1丁目となった。平成2年には、厚別区、清田区の人口増加が著しかったため、東方向へ移動し、大通東2丁目となった。7年は北東方向に、12年にはわずかに東方向へ移動し、17年は北区、西区、中央区での人口増加が大きかったため、初めて北西方向へ移動した。

第16表 人口重心の推移

- 1. 本市独自集計結果である。
- 2. 現在の市域に組み替えたものである。

各年10月1日現在	
年次	位置
昭和35年	中央区南2条西5丁目
40年	中央区南2条西3丁目
45年	中央区大通西2丁目
50年	中央区北1条西2丁目
55年	中央区北1条西1丁目
60年	中央区大通東1丁目
平成2年	中央区大通東2丁目
7年	中央区大通東2丁目
12年	中央区大通東2丁目
17年1)	中央区北1条東2丁目

注：1) 「平成17年国勢調査」の要計表による集計結果である。

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

第14図 人口重心の推移

